

第2回 新東北港湾ビジョン検討委員会 議事概要

日時：令和2年9月16日（水）13:00～15:00

場所：TKP ガーデンシティ仙台 30階ホール 30B

【議事概要】

事務局から、6月17日開催の「第1回新東北港湾ビジョン検討委員会」での各委員からの意見を踏まえた対応及びビジョン骨子(案)について各資料により説明が行われた後、意見交換を行った。

【とりまとめの方向性について】

- ・ ICT 技術の記載が i-construction に寄り過ぎている印象があるため、より広く捉えた、あらゆる面の情報化とコストダウンに繋がることを含めて書き込むべき。
- ・ 目標と戦略との繋がりがよく分かるように示すべき。本文記載に当たっては繋がりを十分に意識し、タイトルや場所を変更するとともに、順番もより重要なものを前に示す方がよい。
- ・ フリーメンテナンスや自動操船などの新技術についても、積極的に受け入れて、取り組んでいくことを示すべき。
- ・ エネルギー関連は、風力だけでなく水素についても考慮し、風力発電の海外の経済効果の試算など、新技術があらゆる面で波及効果を生むことの期待も込めて、エネルギー関係を広く記載する。
- ・ フェリーや RORO 船の防災面での港湾の果たす役割を充実させる。
- ・ フェリーや RORO 船に関しては、施設整備後のプロモーションについても記載。
- ・ 農林水産物の輸出促進は、東北の中で輸出拠点をつくるくらいの方角性を打ち出すと共に、加工食品や酒類についても書き込む。
- ・ 国際物流は、鉄道や航空と連携したシー&レールやシー&エアーなども含めて書き込むべき。
- ・ 現行ビジョンで示すツインハブ構想や対岸貿易について、引続き頑張ってやっていくという強い意志のもと、直行便の復活や拡充も大きな目標として掲げるべき。
- ・ ILC は東北の希望、夢でもあるためぜひとも書き込むべき。

【具体的な議論の内容】

(戦略 1-1、1-2 関連)

- ・ アジアや対岸諸国との連携や経済発展を取り込んでいくという視点を表現すべき。
- ・ 増加するコンテナ需要や持続可能な物流体系という表現は、荷物が勝手に増えることを前提とするような印象を受ける。産業と物流業界がうまく連携し工夫してやっていく必要がある。
- ・ コンテナ貨物の東北港湾の利用率が上がるような、道路ネットワーク整備の進捗を踏まえての港の違った使い方などを検討すべき。
- ・ 物流面から見るとコンテナ物流は 1-1 でなく 1-2 の方が合っており、その中でサプライチェーンの効率化が 1 番に入ってくる。
- ・ フェリーが苦戦を強いられている中、産業界に資する方策も含め、地域産業を振興する視点をもう少し書き込むべき。
- ・ 物流の活発化に繋がる、環境自体も使い勝手のよい港となるようなビジョンとしてほしい。
- ・ バルクターミナル整備及び運営において、今後の目標達成に向けた取組みや官民連携の在り方等を具体的に考えていく必要がある。
- ・ 今後の人手不足を踏まえ、将来的にはトラック輸送だけに頼らず、鉄道で大量輸送できるような仕組みづくりにも視点を置くべき。
- ・ 風力発電設備の輸送に際しての道路との連携など、他の交通機関と連携したネットワークの構築について示してほしい。

(戦略 1-3 関連)

- ・ 再生可能エネルギーの電源供給は、注意深く書き込んでいく必要がある。産業誘致はメンテナンス等から入り、そこからロジスティクスを組み立ていく方針とするべき。
- ・ 風力発電については秋田が日本で一番のパイオニアになることが明らかになってきている。洋上風力発電を牽引する秋田に官民協議会の東北版をつくり、後押しする体制を構築すべき。
- ・ 洋上風力発電は秋田県の他にも隣県でも一定の準備段階に入っている区域がある。今後秋田県の 2 つの基地港湾以外の方針も示してほしい。
- ・ 企業技術の連携が港湾利用や産業集積に繋がるようなことを、長期的な取組みの中で位置付けていくことも必要。
- ・ 産業の国内回帰の可能性も踏まえ、アフターコロナの新たなサプライチェーンの中で港湾が果たす役割や、どう取り組んでいくかを検討すべき。

(戦略 2-1 関連)

- ・クルーズ振興をビジョンに書き込むに当たっては、国や他港の感染防止に係る指針づくりや動向等を注視する必要がある。
- ・クルーズ振興は、コロナが収束に向かえばポテンシャルがあるため、クルーズ船誘致に向けた東北一体となった活動の推進と示すとよい。
- ・アフターコロナで東北の港同士が競い合っても仕方がないため、連携しながら寄港誘致の方向性や目標を示すことが大事。
- ・インバウンドが不便なところほど魅力がある側面等も踏まえ、人材育成を含めて作り込み方が重要。
- ・東北は一体となってクルーズ振興に取り組んでいることを強調することと、船社やインバウンドに対して東北全体で魅力を発信できることを踏まえ、魅力を高めるための努力が必要。
- ・クルーズ列車に次ぐクルーズ&レンタカーの可能性を考えると、道路との連携がより重要になる。
- ・みなとオアシスの知名度を上げる方策をとってほしい。
- ・港湾の広い土地は、モトクロスや音楽フェス利用の場所としての魅力向上も考えられるため、何か新しい利用の姿が10年後までにできるとよい。

(戦略 2-2 関連)

- ・洋上風力で算出されるエネルギーが港の中でのエネルギー消費と収支がとれるような、環境に優しい港湾としてのスローガンを掲げられないか。
- ・日本を含む海洋国家が加盟する持続可能な海洋経済の構築に向けたハイレベル・パネルの報告書に示されるブルーリカバリーの観点では、洋上風力発電が最も有望であり、日本で1番のパイオニアである秋田が東北の中でブルーリカバリーを牽引していくこととなる。
- ・アマモ場の再生に加え、洋上風力発電の基礎に藻がつくことが想定されるため、戦略 2-2(1)にブルーカーボンの形成促進を入れてはどうか。

(戦略 3 関連)

- ・企業に対しては、災害発生時の物流の維持や迅速な復旧など、港の背後も含む安全・安心の確保が示せると、立地するうえでの安心感や企業BCPの作成に資すること等のPRに繋がる。
- ・防災面でフェリーやRORO船が果たすレジリエンスの役割をもう少し強く位置付けてもよいのではないか。
- ・東日本大震災を乗り越えた、東北の災害に対する力が他地域と違った強みであることを盛り込むべき。

(ICT 技術の活用について)

- ・ ICT 技術の活用が工事の話だけに見受けられるため、効率化が結果的にコストダウンに繋がるということが重要。
- ・ ICT は建設技術のみではなく、情報技術の活用の中で表現すべき。情報技術の有効活用が荷役等の効率化や速やかな輸送に資する。
- ・ ICT は工事での活用も大事だが、物流面での港湾の運用による効率性を書くなど記載の仕方を検討すべき。将来的にはコンテナターミナルの自動化などが想定されるが、ある程度の目指す方向性まででまとめ上げた方が分かり易い。
- ・ 現実的な課題解決だけでなく、港湾施設のフリーメンテナンスや無人操作等のパイロットプラントの導入をビジョンに入れていくことが東北のこれからの強みとなる。

(農林水産物の輸出促進について)

- ・ 東北は輸入過多という現状の課題を明確に記し、輸出促進は農林水産物に限らず、輸出との均衡がとれる港づくりを行っていくことを示すべき。
- ・ 農林水産物の輸出は小口で季節変動があるため、東北のどこかに拠点を設けて集約することや、輸出相手国のニーズの把握や日本ブランドに加えた安全面での付加価値を港でつけての輸出を検討。

(その他)

- ・ 将来ビジョンを策定するうえで、物流の経年変化や流動をデータとして細かく把握できる取組みが重要であり、目標に含めることを検討されたい。
- ・ 実現すれば加速器等の港湾利用が想定される ILC について、東北でも様々動きがある。

以上